



ロンド

72 号

H.9.11.30. 発行

伊勢フォークダンス協会 ☎0596(25)1577

会員の皆さん！お元気ですか。

晩秋のある晴れた休日の、それは静かな昼下がりです。今まで目もさめるばかりの鮮やかな紅葉も一雨ごとに色あせて行きます。

今年も又目前に歳末を控え仕事は忙しくなるばかりです。でも私達はフォークダンスのお陰でクリスマスパーティ・鹿鳴館パーティ等大いに楽しめるすばらしい目的があります。ほんとうによかったですね。-----



去る11月22日 伊勢トピア2階の和室にて、文化部主催のお茶会がありました。

思いもよらぬ 多数の申込に茶道部一同大変うれしく思いました。はじめてのお茶会とあって少々緊張しましたが、それでも一生懸命おもてなしさせて頂きました。おいしくお茶いっぷく？-----で又々皆さんと交流できた事はなによりです。次回は今日の事を基に反省し話し合ってよりよいお茶会にと考えています。生憎雨となりましたが、遠い所迄お越し下しましてありがとうございました。

参加者多数で好評の中に終わり、皆様のお陰で文化行事が一つづつ、無事終えてゆく事に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

文化部 S. K



マケドニア国立民族舞踊団【タネツ】国際親善伊勢公演を終えて

理事長 村 井 正 治

皆さんと共にあのマケドニアの素晴らしい踊りを観せて頂きましたこと、大変嬉しく思います。約1年半前に打診があつてから公演の平成9年11月1日があつと言う間にすぎていきました。

招聘元のフォークロールレポートの増永さんは、東ヨーロッパで活躍している舞踊団を日本に招待する仕事をしております。増永さんもフォークダンスを踊ってみえる仲間です。

今回の公演はご家族の方も運営に当たってみえました。

西ヨーロッパ諸国の舞踊は比較的触れる機会が多いかと思いますが、東欧諸国の民族舞踊団はあまり日本に来る機会がありません。東欧諸国は裕福な国は少ないようで。

日本に招待して、日本を知ってもらふのと、少しでも裕福になって末長く踊りつづけて頂きたいとの願いを込めて今後も活動が続けるとのことです。

伊勢公演は、採算を考えずに伊勢のフォークダンス協会の皆さん、そして関係者の皆さんに本物を観て頂きたいとのことで実現しました。

マケドニア国立民族舞踊団タネツ公演は今まで観た舞踊団以上に、現地の踊りがそのまま再現されていたように思います。アタナス氏にマケドニアの踊りを習った人は聞き覚えのある曲が何曲か入っていました。チフテ、チャムチェは、男性の力強さと、足腰の微妙な動きを、ヴォダルキは女性の優しさと繊細さを見せてくれました。今回の公演は魅力のある公演でした。

講習会では意気のあつた迫力ある太鼓と笛の音色、優しく判り易い指導で大変良かったと思います。しかし伊勢ではあまりコロ的な踊りを踊っていないので、始めての人には大変であつたと思います、でもこの経験がきっと役に立つことがあると思います。

マケドニアの踊りは複雑なリズムで、ボールで踊るのと、あの間の取りかた(ため)のある深い踊りを、公演を観て、実際に指導を受けた者は細かいところが良く分かつたことと思います。いつまでも忘れずに踊りつづけていただきたいものです。

民族の遺産である踊りを大切に、受け継ぐ若者が努力していることを思い、心の中でこの本来の形が忘れられることなく、踊りつがれていくことを願わずにはられません。

今後も機会があれば開催したいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

最後になりましたが、この公演の開催には、ホームステイを受けて頂いた方、実行委員会の皆さんはじめ、たくさんの方々にご協力を頂きましたこと厚くお礼申し上げます。

追伸

交流会では本協会の名誉顧問でもある水谷市長にご挨拶を頂きました。この公演会を開催するにあたりご苦勞が多かつたことと存じますが、市として今後も協力をしていきますので頑張って下さい、との事でした。

甘辛ホームステイ記

「ナイス ツー ミート ユー」「アィム グラット ツー ミート ユー」ほっとした。彼は、英語ができる。他方の彼は無言できつく握手してきた。一人でも英語ができるれば、意志の疎通ができる。緊張がほぐれた。わが家に着いて直ちに、ホームツアーをする。私が英国・オーストラリヤでホームステイをしたとき共に家の中を隈なく案内してくれた。室の中に人が居てもズカズカと入り部屋の説明と私の紹介をしてくれた。今回私は汚い自分の居間は開けなかった。彼等は私が独身生活を楽しんでいることを理解してくれたようである。夕食に友人が届けてくれた沢山の、おでんとおむすびを並べた。恐る恐るホーク・ナイフで食べて居たが、少しで止めて日本酒・ワイン・ビールをピッチを上げて飲んで居る。緊急用にと大阪の姉が美味しいと評判の三田屋のハム・ソーセージを送ってくれたので、それにサラダを添えて急遽テーブルに乗せた。喜んで食べてくれたので、やれやれと思う。中々食事が終わらないので、洗濯物を出すように催促する。ステージ衣装とYシャツを出してきた。乾燥機が無いので話をしながら洗濯物にアイロンをあてて室内に吊すようにしていると、英語をはなすキロが代わってくれた。2晩3日いると性格・家庭環境が判ってくる。ヴァイオリンを弾くキロは、朝食もトーストにコーヒーを好みアルコールはビールだけ。ガイダー・カーベルを奏するストヤンスは、アルコール好きで、飲み物は全てOK、食べ物も気まぐれ。兩人をつれて三交百貨店地下で何を食べるかと尋ねたら、遠慮したのかフランスパンと焼き鳥だけを籠に入れた。2日目の夜はスツカリ打ち解けて、友人がズンドウ鍋一杯にして届けてくれたビーフシチュウを「これはマケドニアの味」と喜びながらお代わりして話が盛り上げる。兩人共、家族の写真を身に着けていて色々説明してくれた。良いパパである。「男性2人と暮らして恐ろしくない」と尋ねられたが、インテリーのキロは台所・風呂場付近にいる私のそばを通過する時は、必ず口笛を吹いて自分の存在を示してくれた。3日目になると更に打ち解け折り紙上手の友人が日本語で説明しながら折る手つきを真剣に眺めていた。出発寸前の神宮会館広場では、大学駅伝の選手に声援しながら、残り時間を惜しんだ。「貴女の言ったこと、してくれたこと、動作等、総てを忘れないよ」と言いながら涙を溜めて握手を求めた彼等、姿が見えなくなる迄バスの中から手を振っていた彼等、かくしてマケドニア国立タネツ民族舞踊団員のウルルン伊勢滞在は終わりました。滞在中は忙しく大変だったけれど、今は懐かしい楽しい思い出となりました。感じたことは、マケドニア人と簡単に言えないこと。たった2人でも性格・好み・習慣が異なるから。共通部分は、人情・健康の為のダイエットでありました。

C K 記

世界の女性服装史 3 フランス

鹿鳴館時代は、1883年に始まったが、この時代の世界の上層階級の服装は、フランスの影響を受けていた。ショールや肩かけは、頭からかぶったり、衣装に合わせて色々な着方ができる長い布であるが、時代によって変わることなく、身につける人の好みによって、肩にかけて両腕を包むようにし、胸のあたりをブローチで留めるのは暖かく健康的、その他形と関係して長方形は四折り・正方形は対角線折り（三角形）か単純な二折り、又は刺繍を強調する4分の6と呼ばれる変則対角線折りなどがある。エギュヨン公爵からパリ夫人に高価な美しいカシミヤのショールが贈られると、パリの貴族社会に急速に流行した。婦人達は、この高価な布地が持っている新鮮な感覚と柔らかな肌さわりをすると、何とかカシミヤのショールを得ようとした。なかでもふるっているのは、世の男性諸氏がどう反論しても崩れることのない言葉「流行だから」彼女達に恋焦がれている気の弱い殿方には「貴方が私にカシミヤを下さらないのは愛していないからでしょう」と言う殺し文句を言えばよかった。このカシミヤの出現を境にして、ラシヤ・羊毛・木綿・モスリン・レースなどの生地、形も幅広く長いものから、首に巻くスカーフ用の小さいものまで各種を楽しんだ。



編集後記

世は大きくしかも、すごい速さで動いています。その世に流され、時には逆らい、今年もフォークダンスではじまり、フォークダンスで終わると、感じるのは私だけでしょうか。

フォークダンスの楽しみ方は、人それぞれですが、来年もみんなで思い切りフォークダンスを通じて学び楽しみたいですね。みなさん、よいお正月をおむかえ下さい。

S. N